

# 戸田型PBL (Project-Based Learning) の考え方 3

## 戸田型PBLとは？

### そもそもProjectって何？

**正解の無い未知の課題を  
実際に解決していくこと。**

※プロジェクトの語源は、未知の状況 (pro) に、自分を投げ入れる (ject) こと。

## Project



課題

解決

## Based Learning



学習

## 戸田型PBL (課題解決型学習) の定義

具体的な誰かの要望や自身の願望にもとづき、何をしていくか (課題) を決め、期限内にその目標の達成や理想の実現 (解決) を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社会に開かれた探究的な学び (学習)



## 戸田型PBL (課題解決型学習) にするための要件

**単元設計の際に、下記6つの要件が考えられているかを確認すること。**

下記「▲」の段階から、「◎」のように一歩進めることが戸田型PBLにおいて大切

- 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である  
▲水害を調べて発表しよう ⇒ ◎必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう！
- 「あなたなら何をやるか？」という実行方法を問う課題である  
▲食品ロスとは何かを考えよう ⇒ ◎食品ロス防止のために私達に何ができるだろうか？
- 解決 (目標の達成、理想の実現) をしたかの基準が明確である  
▲漠然とゴミを減らしたらゴール ⇒ ◎1人1日100gの家庭ゴミを減らしたらゴール
- 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある  
▲最終結果をまとめて発表した ⇒ ◎未解決理由を探り、改善策を考え (実行) した
- 振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある  
▲チェックシートに○×をつける ⇒ ◎何を学び、どう活かすか等を子供自身が言語化する
- 下図のようなプロセスを繰り返し、学びを段階的に発展させている  
▲プロセスを繰り返している ⇒ ◎発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方2』を参照

## 戸田型PBLの発展イメージ

### 生活科

低学年におけるPBLは生活科そのものである。低学年においては、課題=思いや願いと捉え、思いや願いの実現に向けて活動していくことが大切である。



他者

自分

学校  
地域

中学年以降  
の学習へ

探究していく  
対象が広がる

実生活・実社会で  
生きて働く力  
(未来を切り拓く力)

社会  
世界

検証・  
振り返り

課題  
の設定

まとめ・  
表現

情報の  
収集

整理・  
分析



### 総合的な学習の時間

中学年以降の総合的な学習の時間においては、単元全体を探究的な学習のプロセスを基に構成し、自らの考えや課題を新たに更新することができるよう

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

の探究の過程を「⑤検証・振り返り」まで含めて繰り返し、学びを段階的に発展させることが大切である。



発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方2』を参照